

野生動物被害対策最前線

2022年4月9日(土)の19時30分～22時ごろまで、NPO 法人リトカルと自然観察ちばの共催で「野生動物被害対策最前線」という研修会が開催されました。

講師は山本麻希先生(長岡技術大・准教授・千葉市出身)で、最初の研究は海鳥です。ウヤペンギンで「マイクロデータロガー(小型の行動記録計)」による行動研究です。

野生動物の姿をありのまま計測できることで、厳しい環境に最大限適応して生きていることが分かるようです。

大学では「人間と野生動物の共存を目指し、鳥獣被害対策に工学技術を活用」ということで、野生動物の生態調査、鳥獣被害対策に必要な要素技術の開発を研究されています。

今日は第1部—①ニホンジカの生態と被害、②かわいい侵略者アライグマ、第2部—クマ、ツキノワグマの生態と被害、その他質問への回答で ZOOM による配信で実施されました。

①ニホンジカの生態と被害

日本にいるシカは2種(ニホンジカとキョン)です。ニホンジカの亜種にエゾジカ、ホンシュウジカ、ヤクシカ、ケラマシカがいる。秋に交尾時期にハーレムを作り、雌の妊娠率は97%と高く、年の増加率は約20%と高い。分布域は東北まで広がり、1978年～2014年で約2.5倍に拡大している。その理由は4つの胃、腸内細菌との共生でどんなセルロースでも食べられる。反芻動物で草食性、千種の植物(毒のない)の葉、芽、果実を食べる。枯れ葉もOK、樹皮もOKです。植物なら何でも食べる。農作物の被害は1位はシカ、2位はイノシシ、被害額は100億円を超えるとのこと。シカと人間と森林の関係を見ると、もともとシカは平地に生息する動物、その平地を人間が開発し、シカは低山地帯で生き延び、さらに拡大造林政策で標高の高い山に生息域を拡大した。増えたシカは希少植物の絶滅や樹皮を食べるため、林業被害が多く、その影響で表土流出を招き、環境被害を起こす。冬季の狩猟期になると、シカが市街地に出てくる「アーバンディア問題」がある。都市部、市街地では銃が使用できないので、シカは撃たれない。そのことを学習しているシカが市街地に入ってくるので交通事故や鉄道事故が起きる。

生態系ピラミッドでは高次消費者(人間、オオカミ)に対して1次消費者(シカ、イノシシ)の部類、草食動物は肉食動物に食われる定めが、オオカミが絶滅し、人間の食用も減っているので、イノシシは88万頭、シカは325万頭に増加している。今後10年間で生息数を半減し、イノシシは約50万頭、シカは約160万頭にする指定管理鳥獣捕獲事業を始めた。イノシシ、シカを60万頭ずつ捕獲して、やっとピークアウトして、ようやく減ってきている。しかし、もっと続けて減らしていかなければすぐ増えてしまうので、もっと捕獲しなければならない。シカの防除用として、シカ用フェンス(高さ2～2.5m)、下から掘って入るのを防ぐためシカの林業対策ネットが必要。他に幹にテープ巻く、木の根元に粗朶を集中しておくことが行われている。

②可愛い侵略者アライグマ

北米からの特定外来生物、アライグマは尾がシマシマ模様、5本指が特徴。アメリカでは厄介者で殺されていたが、日本に持っていくと高く売れるということで輸入された。意外と凶暴でペットの飼育放棄が発生し、野生化したものです。野外での寿命は5年ほど。オス、メスとも単独生活し、発情期のみ一夫多妻制。年1回平均3～6頭出産。縄張りを持たないが、餌条件が良いと多くの



個体が集まる。果実、野菜、穀類、種子など植物質中心だが、小型哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、甲殻類、昆虫類、貝類などの動物質も良く食べる。夜行性。木登り、水辺を好み、森林、農地、市街地でも生息。被害はトウモロコシ、スイカ、メロン、養魚などが発生しやすい。千葉県も被害が多い。人家に侵入するハクビシン、アライグマは家族単位で屋根裏のねぐらを交代で利用している。断熱材を巣材にする。糞尿、寄生虫などの被害がある。文化財が危機になっている。

原産地の北米大陸では、狂犬病やアライグマ回虫症などの人畜共通感染症の媒介が問題となる。ペットにも人間にも感染する。北米ではピウマ、コヨーテなどの強敵がいるが日本では競争する動物種はいない。タヌキやアナグマなどの在来中型食肉獣との関係では、食べものや繁殖場所等で競合してしまう可能性は高い。在来の餌生物(両生類、爬虫類、サギ、フクロウ等)の捕食被害が激しい。アライグマの分布は 2006 年～2017 年で約3倍に拡大。アライグマは特定外来生物の管理の考え方により、地域からの根絶をめざした徹底的な捕獲を実施する事が必要。近くの神社、仏閣の柱を見てください。柱に5本指の跡、5本の線が傷ついているのが発見されるかを調べてください。あればきっとアライグマがいるかと思われます。行政に連絡して相談しましょう。

質問1)アカガエルの卵塊が田んぼ一面に 1500 個ほどあったものが、700 個、300 個と減って、今では 200 個ほどになった。アライグマの影響か？

回答1)アライグマが1匹でもいると劇的に減少する。アカガエルの現象はアライグマの影響と思える。アカガエルは鳴き声を上げながらコンタクトするが、鳴き声を上げるとすぐつかまり、喰われてしまう。鳴き声を上げると、次々に食われてしまう。対策としては、水辺を電気柵で囲うか、安くできるシェルターを作るかだと思う。

質問2)行政に連絡して、罠を掛けて1匹取れたが、罠の管理はどうすべきか？

回答2)餌を新しいものに管理する必要がある。キャラメルコーン、カップエビセンや揚げパン等、甘くて、脂っこいものが好き、雨に打たれてグダグダじゃなく、新しくておいしそうなのが必要。子どもが罠に捕まった時、周りにいっぱいいるので、全部捕まえることが必要です。一緒にいた親は罠をこれは危ないものと学習し捕まらなくなる。全部取りきることが必要です。

質問3)庭に両生類に被害があるが、庭にネコ、ハクビシンを見たことがあり、ハクビシンのせいかと思うが如何か？

回答3)ハクビシンも雑食でいろいろな物を食べるが、古くから来ていて日本の自然に溶け込んでいるので、異常な減り方はしない。異常な減り方はアライグマの仕業です。

質問4)カタクリの保存をしているが減っている。イノシシはカタクリが好きか？

回答4)イノシシはカタクリの塊根、ゆり根、葛根などでんぷんの塊は大好きです。防護柵は電気柵かワイヤーメッシュ柵が良い。ネットの柵は効果がない。

質問6)シカの分布について、神奈川県丹沢山系のシカの分布について話されていましたが、千葉県については如何でしょう？

回答6)神奈川県丹沢山系の調査には各大学が調査に入り、調べています。相模湖が神奈川県の水がめということで、この水がめが干上がると神奈川県の水が亡くなるので奥の山林のブナ林を保護するためブナの植林を進めています。そのため、県民から、県民水源環境税を取って進めています。千葉県はサポート体制ができているかと思います。

伊藤)千葉県は中央博物館で調べられています。

第1部の終了後、第2部:クマーツキノワグマの生態と被害のお話でした。

*今回は中田真也子さんの手配でZOOM研修会が開催できました。自宅でゆっくりと参加できるのは良いものです。また、動画再生ができることは、聞き逃したことを確認できるし、もう1回聞けるのはすごく役立つものです。